

平成29年度 学校評価委員会総括

1 目標

- (1) 教育活動、学校運営について有意義な「学校評価」を実施する。
- (2) 「評価」に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努める。
- (3) 「評価」を公表し、保護者・地域住民の理解と参画を得て、開かれた学校づくりを推進する。

2 取り組み

- (1) 授業アンケート
授業をより充実したものにしていくことを目的として、全ての授業で、受講する全生徒に対して6月に実施。
- (2) 保護者アンケート
公開授業に参加した保護者に対して、11月に実施。
- (3) 学校自己評価
教職員自身による自己評価として、2月に実施。
- (4) 学校関係者評価
学校評議員による学校評価として、3月の第3回学校評議員会で実施。
- (5) 学校評価の総括について
ア (1)～(4)の評価及びアンケートの結果を総括し、本校公式HP上へ掲載し公表する。
イ (1)～(4)の結果は各部署へフィードバックし、次年度の各校務分掌の「取り組むべき課題」に反映させ、教育活動の改善につなげる。

3 総括

- (1) 校内各種アンケート
授業アンケートに関しては、全体として、昨年度より評価を上げた項目が多かった。生徒も教員も毎年入れ替わりがあるので過年度との単純な比較はできないが、各教員が授業をすこしでも充実したものにしようと日常的に努力している結果であると受け止めたい。各教員への報告は、夏季補習及び9月以降の授業に活かしてもらえよう、夏休み前に済ませた。保護者アンケートに関しては、授業中や休憩時間の生徒の様子などを見学してもらったうえで、アンケートに記入していただいた。人間関係(教育)の

基本に立ち返るという意味で、「笑顔で挨拶を交わそう」と昨年度から全校で取り組んできたことにも一定の評価をいただいた。キャリア教育に力を入れ、教員が教育活動に熱心に取り組んでいることには評価をいただいた。ただ、ホームページ等の発信をより頻繁に行うことが求められている。学校自己評価に関しては、全教員によるアンケートを実施し集計した。生徒に対する個に応じた指導や校内研修会の充実、国際交流の推進などの取組について、評価が高かった。一方、職員については各部署の協働体制の充実や指導法の共通理解や環境美化、生徒に対しては自主・自立の精神を育む指導について、昨年度と比べて厳しい評価がなされた。時間のなさや、関連機関との連携が多く職員に見えにくいという側面もあるが、改善を図っていきたい。

(2) 学校関係者評価

学校評議委員の先生方に『学校自己評価』『授業アンケート』『保護者アンケート』及び各年次が実施する『生活実態調査』の結果、各部部長・年次主任からの報告などを参考に学校に対する評価をお願いした。全体として良好な評価をいただくとともに、「教員の熱心な指導」と「保護者の期待」に対し、生徒がまじめに結果を出そうと努力する理想的な学校像が見られるとして、教員に対する感謝の言葉や学校の取組に対する応援の言葉をいただいた。また、教員の健康への配慮の声もあった。意見交換の場では、「学校教育活動が安全で楽しいということを実践していること」や「教科のみに重点を置くことなく、教科外活動にも頑張り、次代の日本を背負う人材育成をしている」との感想をいただいた。教員評価については「協働体制や共通認識に対しての自己評価がやや低くなっているところについて、原因の分析と対策を検討し、よりよい学校環境を期待したい」といった課題も示された。